源は、

あり

ふす。

実

7 ź ち

北 米開 谷川智行 督 部

教監

ります。 まる、 えられ、 は仏教の 節です。 同じく、 寺のお手伝いの 楽しい思い れ育ったので、 果物やお菓子を親 われてい 盆」に盛られ ます。子供の頃 している家族や親 七月、 長い歴史を通じて伝 楽しい季節でもあ 」を楽しく過ごし の伝統行 ただきながら、 普段離 います。 八月は 現代でも広く行 私もお寺で生ま 日本では、 出 が沢 たお供えの は、 お 方々と一 お盆には お正月と れて暮ら 気類やお 類が集 事とし Щ 盆 「お あり お盆 0 季 性

教行事は、 このお盆と呼ば が高いのです。 「お盆」 べ物を盛る容器として (盆) を意味するそ (うらぼんえ)」 古代中国 (盂蘭) であっ 歴史的に「盂 |で成立 れる仏 た可 0 入っ 能 り、 う

た 器 端を発する伝統が今日 供 等 中子 経 うです。 لح 7 した『盂蘭盆経』という 炊いた米 0 蘭 語があ 餓鬼道 歴典に、 盆会 を救おうとするという 、養し、その の食べ物の入った鉢 が雨季の終わり(七月 呼ばれてきました。 旬)に仏弟子達 「盂蘭盆」という語は で苦しむ亡き母 目連という仏弟 その 功徳をもっ にご飯 を

> 典です。 と思います。 ただいていくことである を抑えた上で、 ださって て私達に対してかけてく 先祖がその全存在をもっ 釈がなされようとも、は、過去にどのような しなければならないこと を迎える上で最も大切に という言葉の意味につい その解釈をめぐって様々 仏教の長 るのです。 いに応えて生きたいとい きました。しかし、 ては多くの誤解も生じて な紆余曲折を経てきた経 蘭盆経』というお 盂蘭盆会につ 願いがあるということ また私達にもその願 過去にどのような解 また「盂蘭 7 、歴史の る 人はこの 願 教えをい 11 中 つ があ お盆 て 盆 で、 ۳) て、 に 5 達 17 L しかしながら、

えて、 ています。 どを行うの ている私達 養する」行事として考 「ご先祖をお迎えして供 ご先祖のお墓参りな 般的には、 家族や親戚で集ま 77 0 が ・わば、 立場からご 通例となっ お盆 生き とは

かと思います。に対する考え方ではないれているお盆という伝統れがごく一般的に捉えら うと思います。 であろうと思います。 施しをすることによっ ご先祖に対して何らか しをして救っ 先祖に対 事をするような捉え方 かの見返りを求めて願 いといったような、 という考え方であ 自分達を見守ってほ して何 てあ ある 5 げ 41 0 何 0 は ろ ょ

九月

がら生きている ようか。 か。
たしてできるのでしょう れる方々に対して、 を救うということなど つ ことだけでも精一 きることとは一体何でし 仏様の覚りの つまり仏様の 消え去った涅槃の世 ている私 いらっしゃるのです。 はすでに煩 苦しみを抱えな そもそも自分の 世界に 覚り る私達にで 悩 の因縁が 杯にな の世 様々 おら 界

行事 予 定

八月

日曜礼拝休み

二十七日

二十日

日曜礼拝休み

十三日日 十七日 秋季セミナー 秋季彼岸会・ 九月祥月法要 日曜礼拝休み

十四日

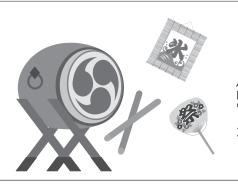
日曜礼拝

お寺ファンデイ

十月

ご先祖

二十二日 十五日 八 一日日 一十九日 日曜礼拝 日曜礼拝 日曜家族礼拝 日曜礼拝 十月祥月法要 ロウィン



0

内容は、

大きく二 正

1,

n

が

か、その邪見にが邪見と言われる自分中心の思いても、それは

7

・ます。

信現

ことであっても、

あくまでも自

つに分けることが

できま

7

ます

分は

伝

的

基づい

7

17

ると

いうこと

大 に

気づか

ば

なら

衆生」という言葉で表

0)

中で「邪見

鸞聖人は あるとい

見 騎 慢悪 信 に 「 正 信

4

在

で

寿経

う

す。

٤

いう

É

浄

どうし

覚り るべきな 7 方 いるの で世 0 ŋ 達の 出し、 世界にいらっ より 0) 方 l パです。 苦しみも は、 心 \$ 今生 み 分 仏 や を の現 救 L き 様 煩 見 0 対 て

いものでもあるのでのものの見方しかで われっ 方では 私達は この とが 識のもと、 実に苦しんでいる私達 やるご先祖様 ている私 自分自身がそのような 様 あ 自 できます。 ない くまでも自分中心 々な判断 自 分」という意識 世界観を構築 分」という意 でしょうか るのです。 をするこ しかし、 できな す。 とし

きた歴史的 段」とい 述べられ 0 親鸞聖人は教えを表 教えに いる部 々を介して伝えら して後 てい つ 事 で 、ます。 事実につ その 7 解 教 そ 説 依依 えがが n n さ す 釈 にれ

るのです

悪衆:

生 を込

わ

しろ自

0

B

んが、単に道徳的印象があるかもり ば、 では とです。「邪見驕 とのでは ことだけ 悪徳に満ちて 生」とい 言葉だと考えら 生」とお 自らの真実を端 「依教段 良か て「 つまり、その言葉が あ 単に道徳的 りません。 うと、 を表し ない れと思って行う つ 邪 しゃってい 0 見 いると かと 締 驕慢 ん。例えいる訳にいる訳はいませ 的に n \emptyset いうこ てい くく n 慢 悪 いうと悪衆 表す る ま 衆 'n 達

> ること 「邪見 n 方 て が で 5 わされます。 に 17 ると ること、 大変なこと 私達 いうことは、 は そして な か 0 しな だと思 生 11 本

悲しみ

 \Diamond 0 n

て

きな

私 を離

達

ŋ

中

心性

持つ価値基準をもつかわらず、私達は白 事を裁 が、 別してしまい 無理なことです。 ています。 できる事柄は実に限ら り立っているのです。 数の因と縁とによって 考えが及ば 来事をとっても、 てい はものごとが正 を見通すことなど、 0 私 達は、 心 ると思い 見単純、 *'*き、 で把握すること 全ての日 良 ない 、ます。 し悪し が ほどの しく にも 因と縁に限られることの私 つ ち うって 私 自 自 日分のの 国底 0 で を 達 見 分 分物 無 の出 す

だと そ 生 今 賜 み <u>ー</u> の また、 のこの は って生きて 教えによれ 0 いうことなの 瞬、 えを お釈 瞬 様々なご ŋ 間 7 、おり、 命を賜 合 迦 ば、 \$ ただ 様 わ 私の で せ 私 す。 つ 17 な達 達 縁 実 ののは は起 7 を

いう保証な いめ なご縁によってあ ŋ 5 身 ません。 L なってしまい 様 仕 事 必い 11 分 自 参りを通 あると言えるでしょう。 5 17 ら見れば「邪見驕慢」でり方もまた、命の観点からわれてしまうというあ身近な生活上の事柄にと 亡くなった家族 覚めて 、る本来 三 中心 は々な事 ずをつい かし、 ず死 の姿に気付い に 大事を後回 同じように命があると 事 5 れて お盆 我 0 ぬ ことや が このように命の 本当は明 になっ ī など、 柄で頭 0 忘 という命 17 61 身 て、 る くと 命 れてしま 17 を · う 伝 しにして、 がちです。 0 いて、様々っていた自 彼ら 生 照 何もあ が一杯に あ 13 活 り得て 5 らへのの 目も今 <u>の</u> うこと 統 り で Ĺ 上的 方に きて つ に は 込 願お h 0 大か

> とは、 なのです。 していく大切 来の を通 常に して う ていると言えます。 遙か先に、 5 て くなりになっ いくことを最 れるのでは ŋ ζ, して、 先 る私 命 願 願 方に目覚 ご先祖 のあり 祖 いをか いをか の方 私達がご先祖 様 私 私達に対 が 々 方を取り なけるよ 兄めて生 る伝 への ない 達 け も願って 本 自身 て下さっ 来 でしょ に 統 お 0 家 参り きて お盆 して に対 行 り 0 ŋ 生 族 お É 事戻本 お

この瞬 ら遠く う名が の場 お盆 いる L に満ちたご先祖との Ŋ れたわけ Ď, 方へ また、ご先祖 て、この「私」を形 っのです。 一実 となるの は の目 離 あるのです。 真の 支えてくださっ 間にも は 盂蘭 n で 意味 た世 覚めによ は 命本来 は盆会に だと思 「ご縁」と な 世界に行った は私達 b, は、 لح 17 再 歓 0 今かか 7 づ

ち

お盆祭り於農場

ん

伊

東見華さ

Ų

シーさ リン

だき、 としてご提供いただき、 年に続き今年も農場を会場 たお盆祭りを主催していた んとご家族の皆様には、 まず、 心より御礼申し上げ スティーヴ村田 ま 昨 3

そして清潔な屋外洗面所 の芳名名札記帳コーナー、 ラッフルブース、 花売り場、 てかき氷ブース、 フェ、ジュース・ビアそし きチキン・ビーフ弁当、 セール、 ンビニ幼稚園のクッキー 年に続いて登場しまし 会場では美味しい照り焼 農場ツアー、 若壮年会によるカ 各種 野菜市、 0 リフト乗 ご先祖 催 L ル

4

スパムむすび、 なプラント・ワークショッ 頭、 そして今年から新たに加 つ 婦 ボッドさんによる小さ た催しが、 若壮年会カフェでの 人会による手作り栗 ホットド ヘザー . ツ

ク、 パーティーでした。 をご家族皆様でお祝い りした十六張りの屋外テン 田さんの九十五歳の誕生日 ブース、そしてヘンリー安 スナード仏教会からお借 子供達によるゲーム ハンバー ガ ĺ オ する ・ツク

とご リッシュ・ニコルソンさん、 願寺伝統の踊りを皆で楽し ナンシー・クリハラ=ジョ でくださったことと思いま 札が風にたなびく中、 素晴らしい音楽と共に東本 ンソンさんの先導のもと、 私達のご先祖も芳名 0 そして盆踊りでは、 踊りの先生であるト 緒に盆踊りを楽しん 私達 の名 私

す。

達

事 上げます。 の方々に衷心より御礼申 当別院最大の資金調達 であるお盆祭りにご協 ご寄付いただいた全て 行

の皆様、 伊東さん、 する僧侶の先生方、 伊東憲昭輪番をはじめと そしてジャネッ スーザン柏原さ ご門徒

借りし ます。 ができました。 皆様のお陰で今年も無事に Ą ジー柏原さん、 お盆祭りを成功させること またお手伝い下さった て厚く御礼申 この場をお ナン

長であるペニー村田さんが それまでお体に気をつけ、 でまたお会いしましょう。 れぐれも水分補給には気を 元気でお過ごし下さい。 つけて! 日も早くご快復されるよ 来年は、 末筆ながら、 お念じ申し上げます。 お寺のお盆祭り 私達 の理事

行事のお知らせ

みました。

八月の礼拝休み

します。 よりお待ち申し上げます。 祥月法要から礼拝を再開致 日曜礼拝をお休み致しま ーデイ週末の九月三日まで **一月の第二週からレイバ** 九月十日 (日) 皆様のご参拝を心 の九月

> 院に多大なるご支援、 力を賜り、 お過ごし下さい。 います。どうぞ楽しい夏を 末筆ながら、 ありがとうござ いつも当別

> > 東本願

秋季セミナー 秋季彼岸会

し上げ

二度、 十七日 われ、 ますようご案内申し上げま ぞご家族、ご友人とお誘 私達自身の仏道の歩みを確 ただきます。 時より秋季セミナー かめる伝統行事です。 はフレドリック・ します。 お勤めします。 合わせの上、ご参加下さい ン師をお招きし、 本年の秋季彼岸会を九月 春分と秋分の日に行 快適な気候のもと、 (日) 午前十時より セミナー 彼岸会は年に 同日午後 お話を ブレニオ の講 を開 どう に







てご登録いただくか、ります。公式ウェブります。公式ウェブ email にてご連絡下さ info@hhbt-la.org ゃ ゃ て最新の情報は email X 别 ーリング 1 院 の活 リングリスト 動 IJ に ス . つ į,

同 朋 お 悔

宇野 リチャード 谷 1英子 様 行年七十二歲 六月十五日 御 一命終 政雄

行年九十六歲 六月二十一日 終

衣奈 義孝 様 行年八十三歲 七月十三日 御 命終

竹 行年七十四十 内 勝 様 歳 御 命終

重村 文子 様 八月五日 御命終 行年九十五歲

んで哀悼の意を表します。